

2011 年度遺物整理報告

本研究所には、過去の調査に関わる大量の考古遺物が保管されている。しかしそれらの中には未整理のものも多く、台帳にも不備がある。長年の間に生じた混乱もみられ、憂慮すべき状態であった。そこで研究所では、3年計画でこれらの整理を行うこととし、具体的には①全遺物の整頓取蔵、保存体制構築および基本台帳の完備、②未報告遺跡の報告準備等の目標をたてた。①についてはまず遺物の保存状況の正確な把握、関係資料の収集、図面類の確認をおこなった。作業の結果、ダンボールに入れられたままの資料が大量にあることが判明したため、それらを急ぎ恒久保存ができるコンテナに移す計画をたてた。またそれらの分別、破損した遺物の修復、汚損した袋の交換、汚損した遺物の洗浄、

劣化した遺物の応急保存対策等を行った。着手した遺跡は東原古墳群、徳台遺跡、坊入遺跡、年長1号墳、炭焼平古墳群、地部道1号墳等に及び、一応修復が完了し、状態の良いものについては展示に供した。しかし、残された部分も多く、台帳の作成、コンテナへの収納も一部にとどまった。

②の対象となるのは川田原遺跡(古墳)、河原田遺跡(弥生時代)である。川田原遺跡については分類を終了し、コンテナに収納した上で、大半の遺物の図化を終了した。河原田遺跡については複数個の大型土器棺の接合中である。その他の大量の土器片については確認と記入を継続中である。①②ともに、まだ緒に就いたばかりであり、継続して地道な努力を続けてゆきたい。